

社会、地理歴史、公民WGの 取りまとめについて

議題2

取りまとめに向けた検討について



文部科学省

社会・地理歴史・公民 WG取りまとめ（案）

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

(1) 現状の成果

ア. 現行学習指導要領の考え方

- 社会科等では、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力」を共通の目標として整理し、資質・能力の育成を図ることとしている。
- 今次の学習指導要領では、グローバル化への対応、持続可能な社会の形成など現代的な諸課題を踏まえた社会参画への意識の涵養をねらいとし、
 - ・知識や思考力を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、
 - ・自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、
 - ・持続可能な社会作りの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度

など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことや、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実などの点から、教育内容の見直しを行った。

- そのため、全ての学校段階を通じた問題解決的、課題解決的な学習の過程の充実を図るとともに、特に高等学校では、選挙権年齢の引き下げや、その後の成年年齢の引き下げも見据え、
 - ・共通必修科目としての「地理総合」「歴史総合」「公共」を設置し、
 - ・これらを発展的に学習する選択必修科目として「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」を設置する。

など科目構成の見直しを行った。

イ. これまでの成果

- これらの内容・構造の改善の成果として、
 - ・学習目標の明確化
 - ・地域課題等への意識と実践の充実
 - ・具体的な社会事象との関わりを意識した学習内容の改善
 - ・社会的な見方・考え方を中核とした学習課題の解決を意識した学習活動の充実

などが進められ、その影響として、例えば生徒にとって社会科等の学習が「役に立つ」「わかる」「好き」と答える割合が従前と比べて改善されるなどの状況も現れてきた。

(2) 現状の課題

ア. 系統性・体系的な整理の必要性

- 今次改訂において、小・中・高の系統性を高め授業改善が進められる一方、依然として、断片的な知識の習得中心の授業が行われている実態も見受けられ、主要な問いによる追究や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が道半ばであること、そうした問題の背景として、高校入試改革等が道半ばであること、教科書の分量等が多すぎることを指摘する声もある。
- こうした成果と課題を踏まえつつ、児童生徒の発達段階を踏まえ、より一層、児童生徒の資質・能力を育成するため、内容等の系統的な整理や分野・科目の体系的な整理、必要な精選を図る必要がある。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性②

イ. 課題を追究・解決する活動における課題

- 今次の学習指導要領改訂においては、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動の充実が図られ、課題把握（動機づけ、方向づけ）、課題追究（情報収集、考察・構想）、課題解決（まとめ）、新たな課題発見（振り返り）といった学習過程を、単元など内容や時間のまとまりの中で児童生徒が行うこととされ「資料などから疑問を見つけたり問いを作ったりしている生徒」は60%前後（暫定値）にとどまっている。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度））
- また、多様な立場の人々による様々な情報や資料等が溢れる現代社会において、その情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することは一層重要となっている。

ウ. 社会情勢の変化に伴う課題

- グローバルな協調や競争に関する課題、内なる国際化、地球環境の変化やそれに伴う自然災害の頻発化・激甚化、生成AIなどデジタル技術の飛躍的な発展。人口減少・高齢化の加速がもたらす持続可能性の危機など、社会情勢の変化の観点から内容の見直しの必要性が高まっている。
- また、現行学習指導要領改訂後に制定・改正された人権に関する教育と関連のある法令等（こども基本法、障害者差別解消法、理解増進法、偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画など）を踏まえた検討も必要となっている。
- 一方、上記に関する内容の充実を図る際、調整授業時数制度も見据え、全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る必要がある。

エ. 社会参画意識に関する課題

- 今次改訂において、小・中・高等学校の各段階を通じて教科等横断的な視点から主権者教育に関する内容が充実されたが、各学校種・各分野、科目の学習が、一部の教科等で社会の一員としてのよりよい社会づくりの意識に課題があり、社会との関わりを実感できる学習活動が不十分ではないかといった指摘がある。（学習指導要領実施状況調査（R4～6年度））
- 18歳の意識調査において、当事者意識は上昇傾向にあるものの、諸外国と比較すると低い水準にある。（18歳の意識調査（日本財団、2026年4月6日）また、直近の衆議院議員総選挙における全体の投票率（56.26%）に比べて、10代の投票率（43.45%）は低い状況が見られる。（総務省）
- また、昨年の参議院選挙等を対象にしたSNS情報の投票行動等への影響に関する調査において、若い世代ほどSNSの情報が投票先に影響を与えていること（都議会議員選挙・参議院選挙2025有権者アンケート（日本総合研究所未来価値研究所政治人材バンクプロジェクト、2025年8月19日））、18歳以上を対象にした、多くの人がオンラインコンテンツについての改ざんや誤情報になることに懸念をいっているなどの調査結果もある。（フェイク情報への懸念と生成AIの影響についてのグローバル調査（アドビ株式会社、2024年6月25日））
- 高等学校における外部機関との連携状況については、第1から第3学年において、選挙管理委員会との連携は約20%、地方公共団体との連携は約7%、関係団体・NPO等との連携は約3～5%など必ずしも高くない状況が見受けられる。（主権者教育実施状況調査（R7年度））
- 一人一人の自己決定権の尊重や社会参加の促進「こども基本法」や成年年齢の18歳引き下げを踏まえた主権者教育のさらなる充実が求められる。社会参加に関わっては、SNSの影響や生成AIの普及などが選択・判断に影響を与えることがあることも踏まえる必要がある。特に、SNSの活用により取り返しのつかない事態に発展するリスクがあることをあまり意識せずに安易に活用するケースもみられる。このようなことから、情報モラルやメディアリテラシーの重要性が一層求められていることを踏まえる必要がある。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性③

オ. デジタル学習基盤の活用に関する課題

- 社会科の教師におけるICT端末の活用場面が、「共通の資料を大きく提示する場面」や「インターネットで自由に調べる場面」が中心となっており、論点整理でも指摘されているように、ICTの活用が教具的発想に留まっている状況が見られる。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度））
- また、ブラウザにAIが実装され、検索結果の最上部にAIによる要約が表示される中、その内容を単純にコピー＆ペーストしている児童生徒に対して、適切な指導がなされていない実態もみられる。収集した情報の信頼性を確認する技能を一層高めるとともに、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経ない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題となっている。

カ. 学校外施設・人材との連携に関する課題

- 社会が多様化・複雑化していく中で、外部機関や地域人材等の協力を得ることや、デジタル環境も有効活用すること等により、児童生徒が実感をもった学習活動を行うことの必要性が高まっている。
- 特に中学校や高等学校における「博物館や郷土資料館の活用など、地域の素材や人材を活用した授業」の実施状況が、20%前後となっており、地域の素材や人材の活用割合が必ずしも高くない状況が見受けられ、こういった点も実感をもった学習活動に繋がっていない要因の1つであるとの声もある。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度）、高等学校学習指導要領実施状況調査（R6年度））
- 一方で、外部人材等の活用にあたり、必ずしも指導の目的や教育的効果等を十分に踏まえず、形式的な連携にとどまっている場合も見受けられる。
- また、学校周辺の地域の資源（公共施設、商店や文化財など）や人材、学校外施設などの活用は、地域を題材とした学習活動を実施する上で効果的である一方、以下の課題も見受けられる
 - 学校の学習に協力する地域人材の情報不足や、活用している場合でも人事異動等により引き継がれない状況もあること
 - 時間割編成や引率教員の人数などの制約もあり学校外施設の活用等が難しい状況や、地理的制約などにより現地に行くことが難しい状況もあること
 - 1人1台端末を活用する中、博物館や資料館、図書館等と接続して、デジタルコンテンツを活用した学習などの工夫も見られるが、必ずしも十分活用されているとは言えない状況があること

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性④

(3) 改善の方向性

ア. 「深い学び」の実現

- 今次改訂で進めてきた方向性に一定の成果が見られることを踏まえつつ、社会情勢の変化の激しい時代に対応できる資質・能力を育成することが重要である。
- 特に、単なる知識を網羅的に学習するのではなく、より社会科等における学習が探究的な学びとなるよう、主要な問いに基づく、問題解決的、課題解決的な学習を充実することで、民主的で持続可能な社会の創り手を育成することが必要である。
- このため、小学校・中学校・高等学校を通じた目標や見方・考え方、学習内容の系統性・体系性の見直しを行うとともに、高次の資質・能力を新たに設け、単元づくりのイメージを教師が持てるようにすることで子供たちの「深い学び」の実現を目指す。

イ. 課題を追究・解決する学習の充実

- 現代社会では、生成AIやSNSの普及により、膨大な情報が容易に得られる一方で、その真偽や信頼性を適切に判断する力が求められている。
- このため、資料や情報を収集するだけでなく、その真偽や意図、背景等をこれまで以上に把握し、その信ぴょう性等を検証し、根拠に基づいて自らの考えを形成する力を育成することが必要である。
- さらに、自らの考えを批判的に見直しながら、他者と対話し、より適切な判断につなげる学習過程を充実することで、社会科等における深い学びの実現を目指す必要があることから、「社会的事象等について調べまとめる技能」の見直しを行う。
- 身近な題材を扱うことで実感を持った学習を進めるため、体験的な学習を含む地域を題材とした学習活動の充実を図る。

ウ. 社会情勢の変化を踏まえた教育内容の見直し

- グローバル化の進展、国際情勢の変化、人口減少・少子高齢化、自然災害の激甚化や生成AIをはじめとするデジタル技術の発展など、社会を取り巻く課題は大きく変化している。また、人権に関する法制度の整備や多様性を尊重する社会づくりの重要性も高まっている。
- このため、社会科等において、持続可能な社会の形成という観点から、これらの現代的な諸課題を適切に扱い、課題の背景や構造を理解するとともに、解決に向けて考察する力を育成するために内容についての見直しを行う。

エ. 教科書の見直し

- 知識を網羅的に記載するのではなく、高次の資質・能力の獲得に必要なものに厳選したり、学習上の課題（問い）を充実したりすることなどで、児童生徒の探究的な学びにつながるような教科書の見直しを促進する。このことにより、教科書を網羅的に教えるのではなく、学習指導要領の趣旨に沿った指導を推進するなど教科書「を」教えるから、教科書「で」教える学習への転換を促進する。

オ. 主権者教育の充実

- 社会参画意識を高めることが求められる中、若年層の政治参加や社会への当事者意識について、改善傾向は見られるものの、依然として課題が見られる。
- このため、子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動をより一層重視するとともに、外部機関との連携・協働や他教科との連携強化を促進する。その際、選挙管理委員会や地方公共団体、NPOなどの外部機関との連携を進め、多様な立場の人々との協働を通して、合意形成や意思決定の過程を学ぶ機会の充実を図る。

2. 目標及び見方・考え方のあり方①

(1) 目標のあり方

【補足イメージ1-①～1-④：21～24ページ参照】

ア. 基本的な考え方

- 各科目の背景にある学問的な知見に基づく社会的事象に関する概念を理解し、確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、資料や概念に基づき、課題発見・解決できる力や自らの考えを批判的に捉え直す力を養うことによって、民主的で持続可能な社会の創り手を育成する
- 見やすさや分かりやすさを踏まえた改善を図るため、箇条書き等により、できるだけ簡潔な表記で示す。

イ. 柱書の在り方

- 教育基本法等の理念を踏まえつつ、骨格は引き続き小中高等学校を通じて共通のものとした上で、発達段階を踏まえた表現とする。
- 現行の「グローバル化する国際社会」という記載は、将来社会を見据えた際に、地域社会から国際社会まで（地域・国・世界）含めて、よりよい社会の形成が一層求められていることを踏まえて記載を見直す。
- また、「主体的に生きる」ことについても、より多様な他者と「協働的に」生きることが求められることを踏まえて、あわせて記載を見直す。その際、教科の目標であるという位置付けを踏まえ、できるだけ端的な表現とする。

ウ. 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の在り方

＜①知識及び技能＞

- 知識及び技能の深い意味理解を促す観点から、「社会的事象に関する概念」の理解を充実する方向で見直す。
- その際、ここでの「概念」の理解とは、学習する知識を統合して到達する理解、すなわち、指導における単元（内容のまとまり）の知識の獲得目標となるものと捉える。
- 真偽が定かではない多様な情報が行き交う社会において、調査や諸資料から収集した情報の信ぴょう性を確認することを重視する観点から、発達段階も踏まえ、小中学校においては、「確かな」情報に基づき、「適切かつ」効果的に調べまとめる技能を身に付けること、高等学校では、批判的に情報を扱う視点をより一層重視し、「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付ける方向で見直す。

＜②思考力、判断力、表現力等＞

- 社会科等の学習過程の特質として、教科目標において「課題を追究したり解決したりする活動」を通して、資質・能力を育成することが明記されている中で、より一層深い学びを具現化する観点から、自らの考えを批判的に捉え直す力の観点を追記する方向で見直す。

＜③学びに向かう力、人間性等＞

- 論点整理における「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」、「他者との対話や協働」、「学びの主体的な調整」「学びを方向付ける人間性」の4要素を基に整理する。

2. 目標及び見方・考え方のあり方②

(2) 見方・考え方のあり方

【補足イメージ2-①～2-③：25～27ページ参照】

ア. 社会科等における捉え方

- 従前の「見方・考え方」として、小学校社会科では「社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」としていた。
- このうち、「社会的事象」は社会科が扱う事象や対象を示すものであり、学ぶ「対象」と位置づけられる。また、「位置や空間的な広がり」等については、学ぶ上で着目すべき当該教科等の固有の物事を捉える「視点」と位置付けられる。さらに、「比較・分類したり」等については当該教科等の固有の考え方や判断の仕方として「方法」と位置付けることができる。
- 新たな「見方・考え方」においては、本質的な意義を端的に示す観点から、「対象」と抽象的な「視点」と「方法」を示すこととし、「高次の資質・能力」においては、具体的な「視点」と「方法」は一体的に記載する。
- その際、従前、社会科等において「見方・考え方」として扱っていた事項は、既に現場においても広く浸透していることを踏まえ、新たに高次の資質・能力に位置付ける「学びの深まり」を示す要素を呼称する際には、継続性を確保する観点から、例えば、「社会的な視点や方法等」として呼称する。

イ. 見直しに向けた考え方

<①当該教科で扱う事象や対象>

- 現実社会では、社会的事象に加え、「事象」を表象するものとして「言説」も含め、多様な情報が混然一体として存在するものであることから、「社会的事象や言説」として整理する。

※表象としての「言説」はあくまでも思考の契機であり、実際には「事象」との関係の中で扱うべきものであることに留意

※「事象」と、その事象についての多様な表現である「言説」は、同次元ではないことを前提とする

<②当該教科固有の物事を捉える視点>

- 地理、歴史、公民の各分野固有の抽象的な「視点」として、高次の資質・能力との違いも踏まえつつ、整理する。（23ページ参照）

<③当該教科固有の考え方や判断の仕方>

- 新たな「見方・考え方」では、各教科等の資質・能力が身につく中で、様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生につなげていけることを示す。
- このことに加え、社会科等においては、社会的事象や言説について、様々な視点から課題を考え、確かな根拠に基づいて公正に判断することが重要であることから、新たに「見方・考え方」では、「よりよい社会の形成」に向けて課題を「多面的・多角的」に考えるとともに、確かな根拠に基づき、「公正に判断」することとして整理する。

3. 資質・能力の構造化のポイント

(1) 表形式化の形式

- 社会科については、知識及び技能を思考力、判断力、表現力等を一体的に育成することが重要であることから、「並列パターン」で構造化する。

(2) 高次の資質・能力の在り方

ア. 示し方について

- 「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師がもてるようにするため、高次の資質・能力については、原則、各分野・科目の各内容項目（中項目）ごとに構成する。その際、各分野・科目の内容構成の特質に応じて、一定の違いを許容する。
- また、特に「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、各分野・科目の学習上の特性や系統性も踏まえて、考察・構想・表現の学習過程について段階的に示すものとする。
- 従前の「見方・考え方」で示していた「各教科等の学びの深まり」を促す事項は、「総合的な発揮」の中で内容に即して具体的に示すものとする。
- 内容項目に該当事項がない場合は、当該資質・能力の深まりを可視化する「知識及び技能の統合的な理解」等については示さない。

イ. 考え方

- 「統合的な理解」では、社会的事象に関する個別の知識・技能を統合して、社会における様々な場面で活用できる概念として習得された状態を示している。これにより、個別の用語の暗記にとどまらず、それらの意味が結びつけられて統合的に理解できるような授業への改善を促す。
- 「総合的な発揮」では、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の社会的な視点や方法等を示している。これにより、これまで社会科において「見方・考え方」と捉えられてきたものの具体化を図るとともに、知識・技能が統合的に理解されるために重要となる、学習過程を通じて追究する「本質的な問い」を教師が構想しやすくする。
- また、「総合的な発揮」では、当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる社会の創り手を育成することを重視。そのため、社会的事象を様々な側面や角度から捉えて考察することや、社会に見られる課題解決のために、自分の意見や考えをまとめることを示す。

【補足イメージ3～6を追加予定】

※高次の資質・能力の具体的なイメージは、補足イメージ3～6のとおりだが、WGでのイメージをもとに、取りまとめの趣旨を踏まえ、告示までに文部科学省において引き続き一層わかりやすいものになるように検討すべきである。

4. 内容の改善のあり方①

(1) 系統性・体系性の整理

ア. 共通

- 単なる知識を網羅的に学習するのではなく、より社会科等における学習が探究的な学びとなるよう、学習指導要領解説において、学習上の課題（問い）等を更に充実することで、社会科等における学習がより課題を追究したり解決したりする活動を重視し、社会認識の育成に向けた授業づくりに繋げる。

イ. 小学校段階【補足イメージ8、10：31、33ページ参照】

- グローバル化する国際社会を踏まえ、児童の思考、認識の拠点を発達の段階に合わせて、身近な地域から始め、国際社会へと広げていくという考え方は継続しつつ、グローバル化など地域社会の変化を含めた内容に見直す。

ウ. 中学校段階【補足イメージ9、10：32、33ページ参照】

- 小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現するため小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける、分野横断的な単元（A・B・C）を新設する。（以下参照）その際、分野横断のねらいを実現できるようにするため、現行の各分野の内容の一部あるいは全部を移行し、その上で各分野の内容の改善を図る。
 - A. 小学校社会科の学習を踏まえた、中学校社会科への学習の動機付けを行う分野横断の単元「社会へのまなざし（仮称）」を各分野の既存の内容を統合・整理して設ける。
 - B. 地理的分野と歴史的分野の学習を踏まえた、公民的分野の学習への動機付けを行う分野横断の単元「私たちと社会（仮称）」を各分野の既存の内容を統合・整理して設ける。
 - C. 中学校社会科のまとめとして、生徒が課題を探究する活動を通してよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を考察・構想する分野横断のまとめ単元「よりよい社会を目指して（仮称）」に位置づけ直す。

エ. 高等学校段階

- 単元（個別の事象を題材に、段階的に思考を深めながら統合的に理解する学習上の構造）を設計しやすくするため、学習指導要領の内容の各項目が互いに関連をもち、単元を構造化する枠組みとして機能することを明確にする。

<①地理歴史科>

- 高等学校地理歴史科においては、小学校や中学校の学習を踏まえた学びを深めるために科目全体の見通しをもたせる導入単元への見直しや探究的な学びの促進を図る。

【補足イメージ11-①、11-②：34～35ページ参照】

a. 地理総合

- ・大項目Aを再編して、地理を学ぶ意味や意義に気付き、科目の学習の見通しをもつための導入単元「地理と私たち（仮称）」へ見直す。
- ・その際、中学校との接続を踏まえ、地理総合の導入として、景観観察で収集した情報をGISを活用して可視化することで、地理の学習と実社会とのつながりを感じられるようにする。
- ・また、導入単元と各中項目を関連付け、生徒が科目のまとめであるC(2)「生活圏の調査と地域の展望」まで全体を見通して学習できるようにする。あわせて、GISについて、その後の学習においても生徒が主体的に活用できるようにするために、解説に事例を示したり、活用する場面を設定する。

b. 地理探究

- ・「地理探究」のB(2)「現代世界の諸地域」を再編して、探究的な学びを促進する新項目「地誌的考察と持続可能な社会づくり（仮称）」へ見直す。

4. 内容の改善のあり方②

- ・ 大項目B（2）の解説には「世界全体を隈なく取り上げるものではないことに留意する」という記述があり、この趣旨をより徹底し、一定のテーマで区分された地域を対象として、課題を設定し、地誌的に考察するとともに、地理的な諸課題の解決の方向性や今後の望ましい地域の在り方を展望する学習活動とする。
- ・ 中学校社会科、地理総合、地理探究を通じた探究的な学びの系統性・体系性を重視する。地理探究では、特に大項目B(2)とCの学習の接続をより強めることで、大項目Cの学習を充実させる。

c. 歴史総合、日本史探究、世界史探究

- ・ 高次の資質・能力とのつながりを明確にしながら、学習内容に対する生徒の課題意識を表現した問いをその後の学習で生かす観点や各単元のまとめに諸地域を読み解く観点、諸事象の解釈や歴史の画期などから生徒が形成した観点などを踏まえて探究的に学習した結果を表現することを促すことを明記する。
- ・ 学習上の課題（問い）や段階的な課題（問い）の設定の方法、資料活用の具体例、生徒自身による問いの表現やその活用、探究的な学びと生徒が自ら行う探究活動との関連などについて、解説においてより分かりやすく記述する。
- ・ 日本史探究や世界史探究の授業が、探究的な学びへの改善に繋がるよう、国において、高次の資質・能力を踏まえ、学習指導要領の内容項目において、知識を身に付けることとされている事象の関連性の整理を一層進めるとともに、教科書発行者に対して、上述で示した学習上の課題（問い）や段階的な課題（問い）の設定方法などの充実内容やその趣旨等を踏まえた教科書編集がなされるよう促す。

<②公民科> 【補足イメージ12-①～12-③：36～38ページ参照】

- 高等学校公民科においては、小学校や中学校の学習で習得した視点や方法（考え方）を用いるなどして探究する学習を一層推進する工夫や手立てを充実する。

a. 公共

- ・ B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」及びC「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」では、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的な原理が効果的に用いられるように、次のような改善を図る。
 - ・ 内容のまとめとして現実社会の事柄や課題を関連づけて捉えた主題を設定しやすくするために、13の事柄や課題を10の事柄や課題に精選する。
 - ・ 人間や社会の在り方を捉える視点や方法（考え方）を用いて考察したり構想したりする活動を通して、現実の具体的な社会的事象と主要な概念とを関連付ける観点からわかりやすく示す。
 - ・ 他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を行う際には、詳細な制度や仕組みの解説ではなく、本来当該活動で目指している基本的な原理に焦点化し利益衡量を図るよう示す。
- ・ 社会参画意識の涵養に関する指導の質的な充実を図るために、社会の現状を的確に把握することや、専門家や関係諸機関などとの連携・協働を図ることを一層推進できるような工夫を示す。

b. 倫理・政治・経済

- ・ 探究する学習で扱う諸課題について、社会の情勢を踏まえた見直しを図る。※諸課題については、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択
- ・ 各科目の趣旨やねらいのもとで、「公共」の学習を踏まえた、「倫理」「政治・経済」での探究的な学習という構造を明確にするために、「公共」と「倫理」「政治・経済」との関係性をさらにわかりやすく示す。

4. 内容の改善のあり方③

(2) 内容の精選・充実

ア. 内容の精選

- 全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る必要があることを踏まえ、構造等の見直しによる整理のほか、教科書の用語の精選も含めた教科書の精選の在り方（※15ページの「(3) 教科書の精選の在り方」を参照）もあわせて進めることにより、多様な子供たちの学びを確かにするための余白を生み出す。具体的には、以下の方法で内容の整理を実施する。その際、調整授業時数制度により標準を下回って柔軟に時数設定される場合も考慮する。

<①小学校>

- 内容の中に重複事項がある際の精選
 (例) 第4学年の「県内の特色ある地域の様子」の学習
 「県内の特色ある地域の様子」については、「伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域」「国際交流に取り組んでいる地域」「地域の資源を保護・活用している地域」の三つの地域を同様に取り扱うこととしているが、二つの地域に選択する方向で精選を図る。
- 総合的な学習の時間（情報の領域）の創設による役割分担での精選
 (例) 第5学年「我が国の産業と情報との関わり」の学習
 情報の領域において、情報技術のメディアが発する情報の特性等を体系的に扱うことで、情報を活用する産業の役割についての学習に重点化を図る。

<②中学校>

- 諸地域を扱う際の、他地域への応用による精選
 (例) 地理的分野「C(3) 日本の諸地域」
 日本の諸地域については、①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象の5つの考察の仕方を基に、いくつかの地域について学習することとしている。その際、考察の仕方が重複する二つの地域を関連させて学習することで、考察する地域数を減らす方向で精選を図る。
- 政治・社会史と文化史の一体化による整理
 (例) 政治史・外交史・文化史・社会史等を一体的に扱いながら各時代の特色を理解できるように整理する。それにより、様々な歴史的事象を相互に関連付けながら、統合的な発揮に示された「時代の特色を大観して表現する」ことを目指すとともに、学習の構造化・焦点化により精選を図る。
- 分野横断における統合・整理
 (例) 分野横断B
 現行学習指導要領の地理的分野・歴史的分野のそれぞれにある地域を題材とした学習活動（地域調査含む）に関わる内容について、身近な題材を扱うことでより実感を持った学習を進める観点から、分野横断Bの中で地理・歴史両面から一体的に扱うことにより精選を図る。
- 情報・技術科の創設による役割分担での精選
 (例) 公民的分野の「私たちと現代社会」における情報科の影響などに関する学習
 情報・技術科において、情報化やAI等の先端技術の進化に伴う現代社会に与える影響を体系的に扱うことで、それらを活用することに伴う社会の変化や課題を考察する学習に重点化を図る。

4. 内容の改善のあり方④

＜③高等学校＞

- 上位概念への統合による整理

（例）「日本史探究」の中項目の知識・技能に明記されている内容項目のうち、近現代で取り扱う内容項目について、現行で新たに導入した歴史総合の取り扱いを踏まえ、学習指導要領でより上位の概念的な理解を実現できるよう学習の構造化・焦点化による精選を図る。それらを踏まえ、教科書等の記載も含め、個別の用語について精選を図ることができるようにする。

- 現実社会の事柄・課題の統合による整理

（例）公共の「B自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」

ア（ウ）「職業選択」と「雇用と労働問題」の2つの事柄・課題を「雇用と労働問題（職業選択を含む）」にまとめることにより精選を図る

イ. 内容の充実

- 社会情勢の変化等を踏まえ、持続可能性な社会の創り手として求められる力をより一層育成するため、実行可能性にも留意しながら、①グローバルな協調や競争に関する世界共通の課題や、②社会構造の変化に伴う我が国特有の課題等の観点などについて、次の視点から必要な見直し（すでに学習指導要領等において示されている項目も含む）を行う。

①グローバルな協調や競争等に関する視点

- ・政治的・経済的な力関係の変化や地域紛争の動向等を含む国際情勢について、我が国との関係性を踏まえ、多面的・多角的に捉える視点
- ・自然災害や防災、環境（海洋を含む）に関する内容の扱い
- ・生成AIをはじめとするデジタル技術の進展が社会に及ぼす影響に関する視点
- ・国際社会における我が国の役割や国際協力の在り方など国際的な枠組みの中で捉える視点 等

4. 内容の改善のあり方⑤

②社会構造や国内情勢の変化に関する視点

- ・グローバル化の進展に伴う地域社会の変化を、身近な事象と結び付けて捉える視点
- ・食や農林漁業を取り巻く状況の変化や、食料の合理的な価格形成や食料安全保障に関する内容の取扱い
- ・社会制度教育の意義・役割に関する内容の位置付け
- ・金融経済の仕組みや機能に関する理解の視点
- ・自衛隊が果たしている意義・役割を踏まえた取扱い
- ・領土に関する教育の発達段階に応じた取扱い
- ・経済安全保障など多様な安全保障の概念や意義・役割、それに影響を与える構造の変化に関する視点
- ・北朝鮮当局による拉致問題の内容の取扱い
- ・アイヌに関する理解について、関係法令(※1)の趣旨を踏まえた取扱い
- ・こども基本法(R4)、障害者差別解消法(R3改正)(※2)、理解増進法(R5)(※3)等を踏まえた人権に関する内容の取扱い
- ・旧優生保護法(※4)やハンセン病(※5)に関する正しい理解に基づく人権教育(個人の尊重、人権保障の意義の理解含む)に繋げるため、他教科との連携も含めた必要な取扱い 等

③その他

(※1) アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律

(※2) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

(※3) 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律

(※4) 令和6年9月30日に原告団・弁護団・優生保護法問題の全面解決をめざす全国連絡会(優生連)・国の間で、偏見差別の根絶に向けた施策の推進等に取り組むことなどを定めた「基本合意書」を締結。同年12月27日に総理が推進本部長である「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた対策推進本部」において、「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画」を決定。その中に、「旧優生保護法の被害を踏まえた対応」として「今後の教育課程における取扱いについて検討する」旨が明記。

(※5) 令和元年7月12日に、人権啓発、人権教育などの普及啓発活動の強化に取り組むこと等に言及した内閣総理大臣談話を公表。令和5年3月に厚生労働省主催の「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」において「報告書」を公表。その中に、「教科書」や「学習指導要領」にハンセン病問題を書き込むことなどが明記

注：上記①と②は整理上の分類であり、各項目によっては重複する部分もある。

4. 内容の改善のあり方⑥

(3) 教科書の精選の在り方

- 教科書の精選にあたっては、以下に掲げるように用語の精選や高次の資質・能力を踏まえた見直し、学習上の課題（問い）の充実、図や資料の活用の在り方の見直し等を一体的に進めることとし、新しい学習指導要領を告示した後、すみやかに教科書会社への説明会等を実施し、今回の社会科、地理歴史科、公民科における改訂の趣旨等とあわせて、丁寧に説明する。

ア. 用語の精選

- 社会科等では、入試の影響もあり、用語の暗記量の多寡により評価される風潮が根強くあり、こうした学習観も背景に、特に中学校、高等学校のそれぞれの教科書において網羅的に内容が記載されることにより、各学校段階での内容に重複が発生し、教科書の分量を肥大化させている要因の一つとなっている。
- このため、次の方向性（以下、「教科書等における用語等の精選方針（仮称）」という）に基づき、用語の精選を図るとともに、その趣旨を徹底するため入試の改善を担保する方策について引き続き検討する。

<検討イメージ（案）>

- 現状と課題
 - 学習指導要領と教科書等の差分や入試問題の分析
- 方向性
 - 高次の資質・能力を踏まえた用語の精選
 - 課題（問い）の例示を踏まえ、その課題（問い）を解決するために必要な用語への精選

※ 中学・高校の教科書編集に間に合うよう、令和9年秋までに一定の方向性を出すことが求められる。

イ. 高次の資質・能力を踏まえた内容の精選

- 「高次の資質・能力」を活用することにより、個別的な事象を整理する工夫などを行い、探究的な学びの充実に向かう様々な工夫・改善を教科書発行会社が行うよう促す。
- その際、「日本史探究」や「世界史探究」などの教科書に記載されている歴史用語について、網羅的に掲載するのではなく、高次の資質・能力の獲得に必要なものに限定する視点を持って編集を行うことが重要である旨を周知する。なお、この視点の考え方は、今後作成する「教科書等における用語等の精選方針（仮称）」に含める。

ウ. 学校種の特性を踏まえた整理

- 例えば、歴史領域では、小学校で先人の業績や優れた文化遺産、中学校で我が国の歴史の大きな流れ、高等学校で歴史の変化や展開等に関わる諸事象について学ぶこととなっていることを踏まえ、以下の見直しを行う。
 - 小学校の歴史領域に関する学習については、世の中の動きを人物の業績や優れた文化遺産を通して歴史を大まかに理解するという構成であることを踏まえ、事象を網羅的に取り扱うものではないことから通史を扱うような教科書編集とならないよう教科書会社に対して促す
 - 中学校及び高等学校段階の学習について、今回の議論で示された高次の資質・能力を踏まえ、学習の構成を一層工夫し、これまでの既習事項については軽重をもって扱うことを促す

4. 内容の改善のあり方⑦

エ. 学習上の課題（問い）の充実

- 知識を網羅的に記憶するのではなく、本質的な理解や探究的な学びが充実するよう、学習指導要領解説において、学習上の課題（主要な問い）等をベースにした記載を充実することにより、社会科等における教科書の在り方を大きく転換する。また、デジタル学習基盤も活用した定期試験における記述式問題の出題や、高校入試、大学入試等の改善を促す。
- これらは「知識及び技能に関する統合的な理解」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」を重視した授業づくりを実質的に後押しすることに繋がるものと考えられる。

（例えば、「歴史総合」の解説に記載されているような明確かつ端的な問いについて、「日本史探究」や「世界史探究」でも同様の観点から充実することにより、教科書の改善を推進する）

【「歴史総合」の解説における記載例】

○「第一次世界大戦の展開」の問い

「あなたは、第一次世界大戦が長期戦となり、未曾有の被害が発生したことについて、その最も大きな要因は何だと考えるか」

○「冷戦下の地域紛争」の問い

「あなたは、地域紛争（ベトナム戦争や中東戦争）はその地域にどのような課題を残したと考えるか」

オ. 図や資料の活用の在り方の見直し

- 地図帳や副教材（資料集）の活用やデジタル学習基盤の整備により、児童生徒が自ら情報収集できる環境であること等を踏まえ、教科書に掲載する写真や図などの資料の在り方を教科書編集の際に改めて整理する。その際、教科書には信頼性の高い資料を掲載する役割があることについても留意する。

※上記の見直しにあたっての留意すべき視点について、「教科書等における用語の精選方針（仮称）」を検討する中で示すこととする。

4. 内容の改善のあり方⑧

(4) 主権者教育の充実

- 主権者教育の充実に向けては、学校の年間指導計画に位置付けるほか、その充実に向け、a.主権者教育の取組を深めていく視点と、b.主権者教育の取組を広げていく視点を同時並行的に進めていくことが重要である。

<a. 主権者教育の取組を深めていく視点>

- 主権者として、合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会との関わりを意識する課題を設定し、社会の現状を把握して、社会生活に活かそうとしたり、学習の成果をまとめたり振り返ったりする活動（下記に掲げる実践的な活動を実施する際にこれらの活動の視点を重視）
- 子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動（模擬選挙、模擬投票、模擬議会、模擬請願など）

※ 形式的な活動にとどまらず、多様な意見を交わしあった上で、合意形成を図るなど、社会科学習としての意義を踏まえた活動とすることが重要。その際、こども基本法の基本理念において、全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されることなどについて触れることも重要

※ 以上のような取組が充実されるよう、学習指導要領解説も含めて見直すことを検討

【補足イメージ15：41ページ参照】

<b. 主権者教育の取組を広げていく視点>

- 選挙管理委員会や議会事務局、NPO法人等の外部機関等との円滑な連携・協働
- 他教科（特別活動、総合的な学習・探究の時間等）との連携強化

<指導上の留意事項>

主権者教育の実施にあたっては、平成27年10月29日の「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」の通知や令和8年4月7日の「学校における校外活動の安全確保の徹底等について」の通知で示した考え方（主なポイントは下記参照）に基づく指導を行うことは重要であり、国においてもその趣旨を引き続き周知する。

- 教員は個人的な主義主張を述べることは避け、公正かつ中立な立場で児童生徒を指導すること。
- 指導に当たっては、学校が政治的中立性を確保しつつ、現実の具体的な政治的事象も取り扱い、児童生徒が自らの判断で権利を行使することができるよう、より一層具体的かつ実践的な指導を行うこと。
- また、現実の具体的な政治的事象については、種々の見解があり、一つの見解が絶対的に正しく、他のものは誤りであると断定することは困難である。加えて、一般に政治は意見や信念、利害の対立状況から発生するものである。そのため、児童生徒が自分の意見を持ちながら、異なる意見や対立する意見を理解し、議論を交わすことを通して、自分の意見を批判的に検討し、吟味していくことが重要である。したがって、学校における政治的事象の指導においては、一つの結論を出すよりも結論に至るまでの冷静で理性的な議論の過程が重要であることを理解させること。
- さらに、多様な見方や考え方のできる事柄、未確定な事柄、現実の利害等の対立のある事柄等を取り上げる場合には、生徒の考えや議論が深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。
- その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、児童生徒が主体的に考え、判断することを妨げるような留意すること。

※ 上記の活動で情報収集等を行うにあたり、「社会的事象等について調べまとめる技能」を活用すること。

- a及びbの視点と併せて、文部科学省において、各学校で実施する実践的な活動の取組がより円滑に実施されるよう、総務省や議会事務局、首長部局等と連携するなどの必要な対応を行う。

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方①

(1) 課題を追究・解決する学習の充実

【補足イメージ13：39ページ参照】

- 社会科等における「主体的・対話的で深い学び」をより一層充実するためには、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする「課題を追究したり解決したりする活動」を通じた学習を充実していくことが必要である。
- この活動（課題把握→課題追究→課題解決→新たな課題発見）では、課題把握の段階において、社会的な視点や方法等を用いた児童生徒中心の課題の設定が重要である。
- また、課題把握や課題追究、課題解決の段階においては、多様な立場からの様々な情報が溢れる現代社会の中で、自らの考察や意見形成、他者との議論などの根拠たりえる情報の吟味や活用の方法の獲得が喫緊の課題となっており、情報を収集し、読み取り、まとめる「社会的事象について調べまとめる技能」の見直しを行っていくことが必要である。
- さらに、新たな課題発見の段階では、生徒が自分の学び方、調べ方を振り返って、新たな問い（課題）を見出したり追究したりすることが重要である。

ア. 社会的事象について調べまとめる技能の見直し

【補足イメージ14：40ページ参照】

- 社会科等における「社会的事象等について調べまとめる技能」については、技術の進展に伴い情報や資料等の真偽や意図、背景等を把握することがこれまで以上に求められていることを踏まえ、収集した情報や読み取った情報、まとめた情報の信ぴょう性などを確認する新たな技能（「情報の妥当性の確認」に関する技能）として位置付けた上で、現行の関連する内容を含め整理・充実する。その際、収集した情報の取扱いや情報の発信については、総合的な学習の時間における「情報の領域（仮称）」等の「情報技術の適切な取扱い」での学習と関連させることが重要である。

イ. デジタル学習基盤を活用した学習の充実

- 社会科等におけるICT活用を、「課題を追究・解決する活動」において、学習の質の高まりを促進するために必要な基盤として位置付け、以下の学習を踏まえて見直す。
 - a 課題把握：社会的事象の把握に向けた統計資料等の検索・活用等
 - b 課題追究：適切な根拠資料や原典資料等の収集・分析等グループ内での活発な議論のための資料の共有等
 - c 課題解決：まとめレポートの作成や発表・共有等
- なお、児童生徒が主体的に学習を調整できる環境を整え、その実現を図っていく上でも、デジタル学習基盤は重要であることを認識し、適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

ウ. AI活用の考え方

- 社会科におけるAI活用においては、最終的には生徒が自ら考え、判断し、成果物に内容を自らの言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、「社会的事象等について調べまとめる技能」の「情報の妥当性確認」に関する技能で示した視点も活用しながら、各学校段階や科目・分野において、必要な資質・能力を身に付けることができるかどうかという視点で、課題を追究・解決する学習活動を展開すること、それらの評価方法の改善を図ることを当面の基本的な考え方とする。
- 具体的には、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経ない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題であり、例えば、口頭試問の要素を取り入れる、GIGA端末のアンケートソフトのテストモードを活用して、ブラウザ閲覧や活用ができない環境下で自らの考えを根拠をもって記述させることなどが考えられる。

※「初等中等教育段階における生成の利活用に関するガイドライン」の改訂や、さらなる技術の進展など情報技術の変動性や陳腐化の可能性を踏まえた対応を行っていく必要があることに留意

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方②

(2) 地域を題材とした学習活動の在り方

- 身近な題材を扱うことでより実感を持った学習を進めるため、中学校社会科に新たに設ける接続単元において、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を地理・歴史両面から扱う。
 - 現行学習指導要領の地理的分野・歴史的分野の地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）に関わる内容について、歴史的分野や公民的分野との関連性も踏まえつつ、分野横断的な単元として整理する。
 - 地域の諸課題やその解決を見通した学習課題を設定することで、社会参画意識の向上に資する学習内容とする。
 - その際、地域人材を積極的に活用するなどの取組を行う。
 - なお、実施時期は、原則、3年間の学習の流れや公民的分野との関連を重視するものの、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）の実施時期や方法については、柔軟に実施できる方向とする（学校行事等との連携も含む）。
 - 学校現場における教員の専門性確保等も考慮し、授業の構想に資する優れた指導事例等の周知等を国が主体で行う。
- 現実社会から課題を捉える手法として、地域を題材とした学習活動（地域調査含む）を分野横断の単元を行う際にの主な方法として位置づけるとともに、実施時期や方法は柔軟に扱うことを前提とした上で、特に地域を題材とした学習においてより高い効果が見込まれ、主たる実施単元となる分野横断の新単元（「私たちと社会」）に位置付ける。

※これらの活動の実施にあたっては、紙とデジタルの併用など多様なリソースを活用した取組が求められる。

(3) 学校外施設・人材との連携

- 外部人材等の活用にあたっては、まず教師自身が活用の目的・意義や教育的効果、児童生徒や学校の実態等を踏まえた上で、指導計画全体を設計するとともに、外部人材との綿密な事前打合せ等を行うことが重要。その上で、以下に掲げるような取組を実施している教育委員会や学校等の好事例や取組のアイデアを、国において整理した上で周知する。
 - 地域人材等の活用の一層の工夫と仕組みの構築

各学校において、学習で活用した地域の資源や地域人材、学校外施設などを継続的に活用できるように必要な情報を学校内で共有・引き継いでいくなどの工夫の例示
 - 行政機関・学校外施設との連携協力

学校を所管する都道府県・市町村教育委員会等において、学習に活用可能な学校外施設に関する情報を収集・整理し、各学校に周知することや、学校と学校外施設をつなげる仕組みなどの構築の例示
 - デジタルコンテンツ等の効果的な活用

情報科化が進む社会において博物館や資料館等におけるデジタルコンテンツが充実している実態もある。実体験を伴う現地での学習の重要性は引き続き重視する必要性がある一方で、学校や地域、児童生徒の状況によっては、学校外施設への訪問が難しい場合もある。このため、1人1台端末を活用し、博物館や資料館、図書館等のデジタルコンテンツの効果的な活用の例示
 - その他

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方③

(4) 学習評価の在り方

- 個人内評価として、「学びに向かう力の3要素」（初発の思考や行動・好奇心、学びの主体的な調整、対話や協働）を思考・判断・表現の過程で教師が一体的に見取ることとなるため、学習指導要領の改訂後に、社会等における「学びに向かう力、人間性」の目標から「学びに向かう力の3要素」を抽出し、それらから「見取る姿（仮称）」を速やかに検討する
- その際、当該評価期間における思考・判断・表現の学習過程全体を通じて、「継続的な発揮」を見取ることができたことをもって、「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記することで一体的に評価する。

(5) 柔軟な教育課程の編成・実施

- 論点整理では、学習内容の学年区分について以下のとおり提言している。
 - 教科の系統性や発達段階を踏まえた指導内容を確保する役割を果たしており、教科書作成などの観点からも、引き続き一定の記載は必要。
 - その上で、児童生徒の実態に応じて必要があると判断する場合は、学年区分にとらわれず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確化すべき。
- これを受けた総則・評価特別部会では、以下の方向で検討がされている。
 - 「想定する指導学年を明示する場合は○学年相当という形で示す」とこととし、
 - 学年区分を示す場合であっても、児童生徒の実態に応じて必要があると学校が判断する場合は、学年区分にとらわれず柔軟に指導が可能である旨を明示的に示す。
- 社会科等においても、発達段階を踏まえた学年区分は引き続き一定示しつつも、学年を超えた指導時期の前倒し・後ろ倒しを認めることにより、ある程度まとまった時間をつくりだすことが容易になり、その時間で、定着に課題のある内容の学び直しなどを実施することができる。なお、適切な学年区分の示し方や領域等に配当する時数の目安の示し方については、告示文を整理する中で検討する。
- 高等学校については、今般の教育課程の柔軟化の仕組み（単位の倍化、増単・減単をきめ細かく可能とする等）の下で、地理歴史科・公民科の諸科目の取扱いについては、多様性の包摂の観点も含め、総則・評価特別部会での議論を踏まえ、告示文での示し方を検討する。

【小学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標

下線：現行からの変更点

柱書			
よりよい社会の形成に向けて、 <u>主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> 、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	・ <u>地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。</u> ・ <u>様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う。</u> ・ <u>社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。</u> ・ <u>考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。</u>	・ <u>社会的事象について、よりよい社会を考え見通しを立てたり、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</u>

※学年別目標の在り方について

- ・ 小学校の学年別目標については、総則・評価特別部会の議論において、表形式化に当たり、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとされたことを踏まえて、提示しない。

見方・考え方

- ・ 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【中学校・社会科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標

柱書

青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点

中学校	社会科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ，課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	地理的分野	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ， <u>地理に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して</u> ，次のとおり育成することを目指す。		
	歴史的分野	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ， <u>歴史に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して</u> ，次のとおり育成することを目指す。		
	公民的分野	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を</u> ， <u>現代社会に見られる課題を追究したり解決したりする活動を通して</u> ，次のとおり育成することを目指す。		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	- 我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関する学習を通して社会的な事象に関する概念について理解する。 - 調査や諸資料から<u>確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的な事象の意味や意義，特色や相互の関連を，資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 社会的な事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見だし，<u>自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	- 我が国の国土及び世界の諸地域に関して，<u>地域の諸事象や地域的特色を理解する。</u> - 調査や諸資料から<u>地理に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	<u>地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，地域の空間的な広がり，地域の環境，地域間の関係などに着目して</u>，多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>地理的な課題の解決に向けて公正に</u>選択・判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<u>日本や世界の地域に関わる諸事象について</u>，よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる課題を見だし</u>，<u>自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究</u>，解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情，<u>世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする</u>ことの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	- 我が国の<u>歴史の大きな流れを</u>，世界の歴史を背景に，<u>各時代の特色を踏まえて理解する。</u> - 諸資料から<u>歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	<u>歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時系列，推移，類似や差異，因果関係や現在とのつながりなどに着目して</u>，多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に</u>選択・判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<u>歴史に関わる諸事象について</u>，よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる課題を見だし</u>，<u>自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究</u>，解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情，<u>国民としての自覚，国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする</u>ことの大切さについての自覚などを深め，<u>国際協調の精神を養う。</u>
	公民的分野	<u>個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて</u>，<u>個人と社会との関わりを中心に理解を深める。</u> - 諸資料から<u>現代の社会的な事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べ</u>まとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的な事象の意味や意義，特色や相互の関連を<u>現代の社会生活と関連付けて</u>多面的・多角的に考察する力を養う。 <u>現代社会に見られる課題について公正に</u>判断する力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	<u>現代の社会的な事象について</u>，<u>現代社会に見られる課題を見だし</u>，<u>自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わろうとする態度を養う。</u> - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，<u>各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</u>

見方・考え方

- 【**地理的分野**】・社会的な事象やその言説を，地域の空間的な広がり，地域の環境，地域間の関係などに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること
- 【**歴史的分野**】・社会的な事象やその言説を，時系列，推移，類似や差異，因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること
- 【**公民的分野**】・社会的な事象やその言説を，政治，法，経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え，よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え，根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・地理歴史科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標		柱書	青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点		
高等学校	地理歴史科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に</u> 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	地理総合、地理探究	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に</u> 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>地理に関する</u> 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	歴史総合、日本史探究、世界史探究	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に</u> 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>歴史に見られる</u> 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
高等学校	地理歴史科	・ <u>地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>社会に見られる課題の解決に向けて構想する力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>	・ <u>地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</u>		
	地理総合	・ <u>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</u> ・ <u>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる</u>課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>追究</u>、解決しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとする<u>大切さ</u>についての自覚などを深める。</u>		
	地理探究	・ <u>地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。</u> ・ <u>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に<u>そこで見られる</u>課題を見いだし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に<u>探究</u>しようとする態度を養う。</u> ・ <u>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、<u>世界の諸地域の多様な生活文化</u>を尊重しようとする<u>大切さ</u>についての自覚などを深める。</u>		
	歴史総合	・ <u>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</u> ・ <u>諸資料から収集した歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>		
	日本史探究	・ <u>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。</u> ・ <u>諸資料から収集した我が国の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>		
世界史探究	・ <u>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。</u> ・ <u>諸資料から収集した世界の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。</u> ・ <u>歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力を養う。</u> ・ <u>考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</u> ・ <u>自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。</u>			

見方・考え方

【地理総合、地理探究】

- 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【歴史総合、日本史探究、世界史探究】

- 社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高等学校・公民科】目標及び新たな「見方・考え方」（案）

目標		柱書	青字：教科目標との相違点 下線：現行からの変更点	
高等学校	公民科	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
	公共	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>		
	倫理	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて</u> 、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 <u>現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>		
	政治・経済	よりよい社会の形成に向けて、 <u>広い視野に立ち、主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を</u> 、 <u>現実社会に見られる複雑な諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。</u>		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	公民科	・ 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解する。 ・ 諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。	・ 現代の諸課題について、事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。 ・ 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	公共	・ <u>現代の諸課題を捉え考察し</u>、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・ 諸資料から収集した、<u>倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して</u>、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。 ・ 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、<u>現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として</u>、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	倫理	・ 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・ 諸資料から収集した、<u>人間としての在り方生き方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力を養う。 ・ 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ <u>人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。</u> ・ 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、<u>現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。</u>
	政治・経済	・ <u>社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。</u> ・ 諸資料から収集した、<u>社会の在り方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べとめる技能を身に付けるようにする。</u>	・ <u>国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して</u>、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、<u>考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。</u> ・ <u>構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</u> ・ 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	・ <u>よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。</u> ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、<u>国民主権を担う公民として</u>、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、<u>我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</u>

見方・考え方

・ 社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直し（案）

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 （地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史（地理総合、地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 （歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史（歴史総合、日本史探究、世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会 （公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民（公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民（倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民（政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	

（見方・考え方）

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会科等の新たな「見方・考え方」の整理の考え方

	地理	歴史	公民
新たな「見方・考え方」	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること ※公民は中学校公民的分野
高次の資質・能力	＜視点＞ 位置や分布、人間生活と自然環境との関係、地域間の結び付き、スケール、変容など ※ 地理教育国際憲章1992.8月において示されている、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域に関わる視点を地理学習の実態に合わせて修正 ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載	＜視点＞ 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響など ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載	＜視点＞ 対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換など ※ 上記のほか、個人の尊重と法の支配、民主主義など内容によって異なる ＜方法＞ ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察等の方法を記載

（見方・考え方）
 ●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ

現行の記載

- 側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

見直し案

- 新たな「見方・考え方」については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化。**
- 高次の資質・能力**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す。**

<地理>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 位置や空間的な広がり
- 地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
 - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
 - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
 - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
 - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係など
- よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 位置や分布（**地域の空間的な広がり**に関わる視点）
 - 人間生活と自然環境との関係（**地域の環境**に関わる視点）
 - 地域間の結び付き（**地域の空間的な広がり、地域間の関係**に関わる視点）
 - スケール（**地域の空間的な広がり、地域間の関係**に関わる視点）
 - 変容（**地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

<歴史>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- 時期、推移など
- 類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
 - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
 - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
 - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- 時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなど
- よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
 - 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
 - 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
 - 背景や原因、結果や影響（**因果関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

高次の資質・能力について

議題 1 の議論を踏まえた内容を掲載

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・社会・歴史的分野）



次は「中世の日本」の学習か。教科書の見開き2ページの学習をそのまま積み重ねるだけでは、時代の特徴を大観することは難しいだろうな。そもそも、この学習内容はどういう資質・能力を育てたいんだっけ？



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標	
見方・考え方	
高次の資質・能力	
（統合的な理解） 列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の下で展開され、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	（総合的な発揮） 時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特徴を大観して表現することができる。
知・技	思・判・表

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



生徒が最終的に「高次の資質・能力」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。そのためには、課題を追究したり解決したりする活動を通して、中世の日本における時代の特徴を大観して表現できるようにしたいな。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認できるから、それらを基に単元計画をつくれそうだ。



知識に偏りすぎた指導にならないようにするために、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成したいな。育成したい「高次の資質・能力」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるかな。



本単元は、(ア)武家政治の成立とユーラシアの交流、(イ)武家政治の展開と社会や文化の変化の2つの項目からなるんだ。課題を追究したり解決したりする活動を通して、中世の日本における時代の特徴を大観して表現するために、評価課題を「中世の日本は、どのような特徴がみられた時代だったのかを説明しよう！」と設定し、それに向けて学習計画をつくってみよう。
(ア)では、「鎌倉幕府の支配にはどのような特徴がみられたのか」という問いを設定してみよう。まず課題把握として導入の1時間を設定しよう。次に①鎌倉幕府の成立、②元寇(モンゴル帝国の襲来)、③農業など諸産業の発達と鎌倉時代の文化について学習するから、「なぜ武士が台頭し、鎌倉に武家政権が成立したのか」、「元寇は国内にどのような影響を与えたのか」、「鎌倉時代の武士や民衆の生活はどのように変化したのか」という問いを立てて、4時間設定しよう。その後、それらを題材に、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察する時間を2時間設定しよう。最後に、考察したことを表現する時間を1時間設定すると、合計で8時間になるな。
(イ)も同様に8時間設定したら、最後に単元のまとめを表現しよう。評価課題に取り組むことで、これまでの学習を生かして、中世の日本について時代の特徴を大観して表現できるようにしよう。この活動を1時間設定すると、本単元に充てる授業時数は合計で17時間になるな。



評価課題や学習の流れが決まったので、評価計画を立てるか。資質・能力が身に付いているか、きちんと見取れる評価にしたいな。



知識・技能は、評価課題「中世の日本は、どのような特徴がみられた時代だったのかを説明しよう！」の取組状況から見取ろう。思考・判断・表現は、多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特徴を大観して表現することができるかをワークシートから見取ろう。デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・社会・歴史的分野）

単元構想のイメージ

1. 単元名：中世の日本

2. 分野の見方・考え方

社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

3. 高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の下で展開され、民衆の成長や自立的な集団の形成が促されたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。

4. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

- ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、追究、解決に向けて見直しをもとうとしているか
- ・主体的な課題の追究、解決に向けて、自らの学びを振り返ったり、新たな課題を見いだしたりしているか
- ・よりよい社会の実現を視野に、他者と協働して、課題を追究、解決しようとしたり、課題の解決を視野に社会に関わろうとしたりしているか

5. 単元の評価規準

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現
	・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたり、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたりしたことを理解している。	・時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現している。

6. 評価課題

中世の日本はどのような特色がみられた時代だったのかを説明しよう！

7. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流 ・課題を把握する。 「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」 ・課題に対する見通しを立てる。	思		
2	・鎌倉幕府の成立について学習する。 「なぜ武士が台頭し、鎌倉に武家政権が成立したのか」	知		
3	・元寇(モンゴル帝国の襲来)について学習する。 「元寇は国内にどのような影響を与えたのか」			
4	・農業など諸産業の発達と鎌倉時代の文化について学習する。 「鎌倉時代の武士や民衆の生活はどのように変化したのか」			
5				
6	・武士の政治への進出、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。 「鎌倉幕府の支配の特色を多面的・多角的に考察しよう」	思知	○	
7				
8	・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 「鎌倉幕府の支配にはどのような特色がみられたのか」	知思	○	小項目のまとめを表現する。
9-16	(イ) 武家政治の展開と社会や文化の変化			
17	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現する。 「中世の日本はどのような特色がみられた時代だったのか」	知思	○ ○	単元のまとめを表現する。

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

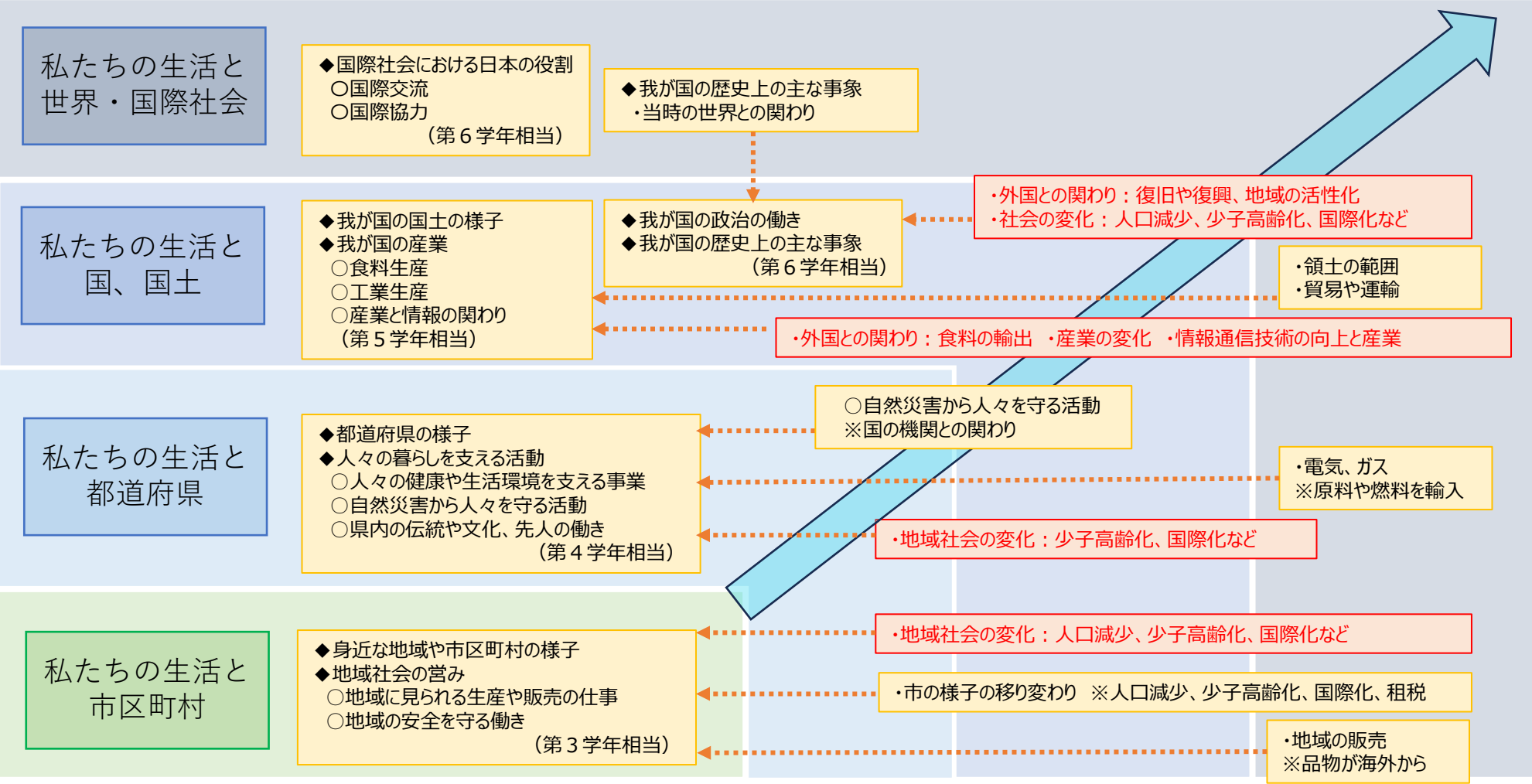


このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

小学校社会科における系統性・体系性の再整理

グローバル化する国際社会に伴い、国際的な環境に身近に触れる機会が急激に高まっていることを踏まえ、グローバル化などの地域社会の変化を含めた内容について見直しはどうか。例えば、市町村や都道府県の様子などを扱う際に、自分たちの身近な地域においてもグローバルな環境との接点が増えてきていることについての理由や背景などについて学習する。

その際、発達段階にも考慮し、身近な地域から始め、国際社会へと広げていくという考え方は継続する。

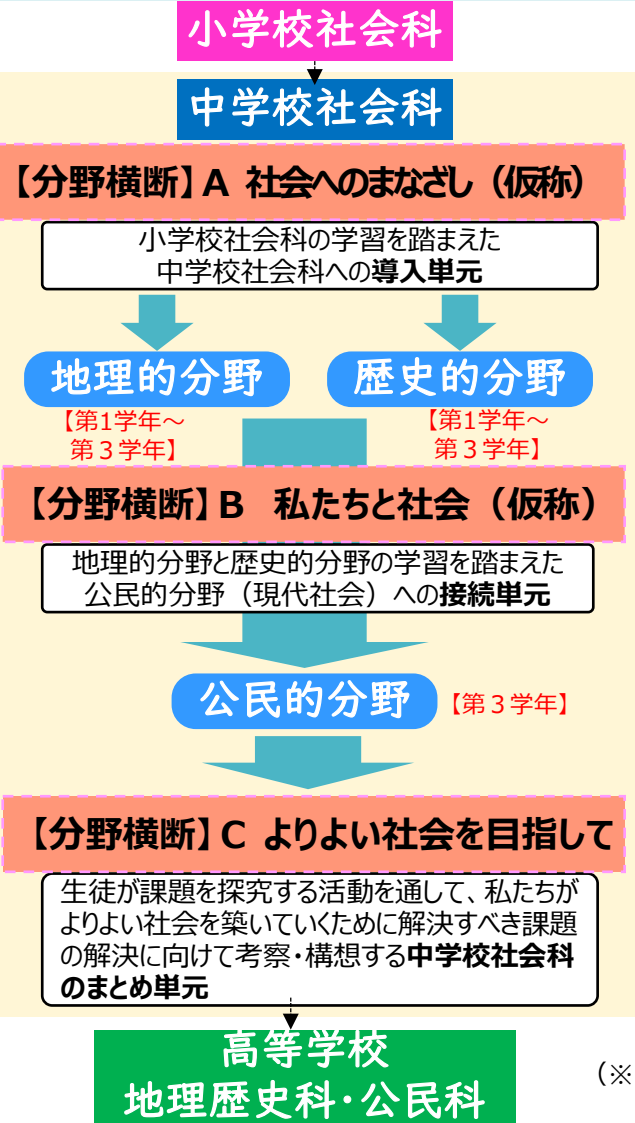


中学校社会科における改善イメージ（案）

※第8回WGからの修正箇所のみハイライト

小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける、分野横断的な単元（A・B・C）に**統合・整理や位置づけを見直す**。

その際、**地理的分野、歴史的分野、公民的分野における必要な学習が適切に実施**されるとともに、地理的分野及び歴史的分野の学習の基礎のもとに公民的分野へ円滑に移行されるよう、**実施時期も念頭に検討**を行うこととしてはどうか。あわせて、既存の学習事項の移行や統合、精選など学習内容の整理を行うことで、**全体として学習内容の増加とならないよう検討**する。



分野横断 A「社会へのまなざし」の学習イメージ	
<単元の問いの例> 私たちの暮らす社会を理解し、社会と自分との関わりを考えるためには、どのように学び方を工夫できるだろうか。	<導入単元に期待されること> ・社会科の3年間の学習の流れや分野ごとの学習の見通しをもつ ・地理的分野（世界や日本の学習）への動機付け ・歴史的分野（各時代の特色の学習）への動機付け
<単元の題材・学習例> 小学校社会科における市区町村から世界・国際社会の学習を総合的に活用	

分野横断 B「私たちと社会」の学習イメージ	
<単元の問いの例> 多様な地域や環境、様々な歴史の中で、私たちは社会の一員としてどのように関わることができるだろうか。	<接続単元に期待されること> ・公民的分野（現代社会を捉える視点や方法（考え方）やそれらを用いて課題の解決を図る学習）への動機付け
<単元の題材・学習例> 身近な地域から社会の課題を見出し、他の地域や歴史と関連付けて考察し、課題の解決に向けて選択・判断	

分野横断 C「よりよい社会を目指して」の学習イメージ（現行の公民的分野のD(2)）	
<単元の問いの例> 社会に参画する主体として私たちがよりよい社会を築いていくためにはどのようにすればよいだろうか。	<まとめ単元に期待されること> ・社会参画意識の醸成（期待される視点例：現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべきことはなにか。私たちがよりよい社会を築いていくために、どのようなことを考え続けていくか。）
<単元の題材・学習例> 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考察・構想し、構想したことを妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現	

現実社会から課題を捉える手法としての地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を分野横断の学習を行う際の主な方法（※）として位置付ける。

（※）分野横断の各単元のねらいに対して、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）が直接体験を生み出すことで、よりよい学びを促す方法となることを例示したり、具体的な手法を例示したりすることにより、教員が取り組みやすくすることを検討。

32

（参考）小・中学校社会科における内容の枠組みと対象

		地理的環境と人々の生活			現代社会の仕組みや働きと人々の生活			歴史と人々の生活		
		地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界
小学校	3年	身近な地域や市の様子 仕事の種類や産地			地域に見られる生産や販売の仕事	市役所などの公共施設の場所と働き 地域の安全を守る働き	国際化 外国との関わり	市の様子の移り変わり		
	4年	県の様子 県内の特色ある地域の様子	47都道府県の名称と位置		人々の健康や生活環境を支える事業 開発、産業などの事例（選択）	自然災害から人々を守る活動 国際交流に取り組む地域		公衆衛生の向上 過去に発生した地域の自然災害 県内の伝統や文化、先人の働き		
	5年	我が国の国土の様子と国民生活 生産物の種類や分布 工業の盛んな地域の分布 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		世界の大陸と主な海洋 世界の主な国々	自然環境に適応して生活していること 我が国の農業や水産業における食料生産 我が国の工業生産 我が国の産業と情報との関わり 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連		輸入など外国との関わり 貿易や運輸	生産量の変化 技術の向上 工業製品の改良 情報を生かし発展する産業		
	6年			外国の人々の生活の様子		我が国の政治の働き 我が国の国際協力	グローバル化する世界と日本の役割	我が国の歴史上の主な事象	国際社会での重要な役割 当時の世界との関わり	
中学校	地理的分野	◎地域調査の手法 ◎地域の在り方	地域構成（日本） 日本の地域的特色と地域区分 日本の諸地域	地域構成（世界） 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	資源・エネルギーと産業 産業を中核とした考察の仕方		交通・通信 州という地域の広がりや地域内の結び付き	地域の伝統や歴史的な背景を踏まえた視点		世界の古代文明や宗教の起り ・武家政治の成立とユーラシアの交流 ・世界の動きと統一事業
	歴史的分野				ギリシャ・ローマの文明 ・市民革命 ・立憲国家の成立と議会政治 ・国民の政治的自覚の高まり ・我が国の民主化と再建の過程			◎歴史との対話 近世の日本とアジア 近現代の日本と世界		・欧米諸国における近代社会の成立とアジア諸国の動き ・日本の民主化と冷戦下の国際社会
	公民的分野		少子高齢化	情報化、グローバル化	私たちが生きる現代社会と文化の特色 現代社会を捉える枠組み 私たちと経済 私たちと政治		文化の継承と創造の意義			※太字は内容の大項目
よりよい社会を目指して										

高等学校地理歴史科（地理領域科目）における改善イメージ（案）

地理を学ぶ意味や意義、地理総合の学習の見通しをもつための導入単元へ見直す方向で検討。（水色マーカー部分）

地理総合

A 地理と私たち（仮称）	B 国際理解と国際協力	C 持続可能な地域づくりと私たち	
(1) 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 生活文化の多様性と国際理解 (2) 地球的課題と国際協力	(1) 自然環境と防災	(2) 生活圏の調査と地域の展望
ねらい： ・中学校の学習を踏まえた、地理領域科目の入り口 ・地理を学ぶ意味や意義 ・地理総合全体を俯瞰し、科目における学習の見通しをもつ ・地図や地理情報システム（GIS）の役割や有用性の理解と、それらを用いた技能の習得	課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな問いにつなげる。 ※A(2)→B→C(1)と、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける		生徒が自ら主題を設定して考察・構想

B(2)で地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望することを促す場面を設定し、C(1)でより探究を深められるように充実を図る。（紫色マーカー部分）

地理探究

A 現代世界の系統地理的考察	B 現代世界の地誌的考察		C 現代世界におけるこれからの日本の国土像
(1) 自然環境 (2) 資源、産業 (3) 交通・通信、観光 (4) 人口、都市・村落 (5) 生活文化、民族・宗教	(1) 現代世界の地域区分	(2) 地誌的考察と持続可能な社会づくり（仮称）	(1) 持続可能な国土像の探究
課題把握：教師や生徒が学習課題（問い）を設定する。 課題追究（情報収集、考察）：情報を収集したり、まとめたりした資料を活用して、多面的・多角的に考察する。 課題解決・新たな課題：考察を通して、問いを解決し、新たな課題につなげる。 ※A(1)→B(1)と、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける	生徒が自ら地域や主題を設定して地誌的に考察・構想 ※課題解決・新たな課題：地理的な諸課題の解決の方向性や今後望ましい地域を展望し、新たな課題に向かう場面を創設		生徒が自ら主題を設定して考察・構想 B(2)課題解決・新たな課題を踏まえる

高等学校地理歴史科（歴史領域科目）における改善イメージ（案）

高次の資質・能力につながりを明確にしながら、単元のまとめで探究的に学習した結果を表現することを促すことを明記する。（黄色マーカー部分）

歴史総合

※示されている項目名は現行のもの。

A 歴史の扉	B 近代化と私たち	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	D グローバル化と私たち	
(1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料	(1) 近代化への問い (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題	(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会 (3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済 (3) 世界秩序の変容と日本	(4) 現代的な諸課題の形成と展望
ねらい：科目への導入、歴史を学ぶ意義、学習基盤となる資料の取扱い	(1)＝課題把握：生徒が近現代の変化について問いを表現する (2)(3)＝課題追究（情報収集、考察）：近現代の歴史の変化に関する主題を設定し、資料を活用して考察する (4)＝課題解決・新たな課題：近現代の歴史の変化と現代とのつながりを考察する ※B→C→Dと、探究する内容は異なるが、課題を追究・解決する学習を繰り返すことで、探究する力を身に付ける			生徒が自ら主題を設定して考察・構想

日本史探究

世界史探究

A 原始・古代の日本と東アジア	B 中世の日本と世界	C 近世の日本と世界	D 近現代の地域・日本と世界		A 世界史へのまなざし	B 諸地域の歴史的特質の形成	C 諸地域の交流・再編	D 諸地域の結合・変容	E 地球世界の課題	
(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）	(1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	(4) 現代の日本の課題の探究	(1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史	(1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	(1) 諸地域の交流・再編への問い (2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	(1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	(4) 地球世界の課題の探究
(1)(2)＝課題把握：時代の転換の考察を踏まえて、生徒が時代を通観する問いを表現し、資料を活用して仮説を表現する (3)＝課題追究（情報収集、考察）：資料を活用して、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期を表現する。 ※課題解決・新たな課題：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 ○A→B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける				生徒が自ら主題を設定して考察・構想	科目への導入（世界史を本格的に対象とするのは初めてのため）	(1)＝課題把握：諸地域を読み解く観点について考察し、問いを表現する (2)(3)(4)＝課題追究（情報収集、考察）：世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸地域を軸に構造的に把握するための主題を設定し、資料を活用して考察する。 ※課題解決・新たな課題：探究的に学習した結果を表現し新たな課題に向かう場面を創設 ○B→C→Dと、探究する内容を変えながら、課題を追究・解決する学習を繰り返し、探究する力を身に付ける		地球世界の課題を主題に設定した学習	生徒が自ら主題を設定して考察・構想	

高等学校公民科（公共）における事柄や課題の在り方について（案）

➤ 現行学習指導要領の13の事柄や課題

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ①法や規範の意義及び役割
- ②多様な契約及び消費者の権利と責任
- ③司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ④政治参加と公正な世論の形成、地方自治
- ⑤国家主権、領土（領海、領空を含む。）
- ⑥我が国の安全保障と防衛
- ⑦国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ⑧職業選択
- ⑨雇用と労働問題
- ⑩財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- ⑪市場経済の機能と限界
- ⑫金融の働き
- ⑬経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

➤ 改善イメージ（10の事柄や課題）

・法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ①法や規範の意義及び役割、多様な契約（消費者の権利と責任を含む。）

- ②司法参加の意義

・政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ③政治参加と公正な世論の形成、地方自治
- ④国家主権、領土（領海、領空を含む。）
- ⑤我が国の安全保障と防衛

- ⑥国際貢献を含む国際社会における我が国の役割

・経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて

- ⑦雇用と労働問題（職業選択を含む）

- ⑧財政及び租税の役割、人口減少社会における社会保障の充実・安定化

- ⑨市場経済の機能と限界、経済活動を支える金融の働き

- ⑩経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）

高等学校公民科（倫理）における事柄や課題の在り方について

➤ 現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目 B (1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ウ)）

- 「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- 「自然」…人間の生命が自然の生態系の中で、植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、調和的な共存関係が大切であることについても思索できるようにすること。
- 「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

・大項目 B (2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(I)）

- 「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、共生といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。
- 「文化と宗教」…文化や宗教が過去を継承する人類の知的遺産であることを踏まえ、それらを尊重し、異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索できるよう指導すること。
- 「平和」…人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想できるよう指導すること。

➤ 改善イメージ（課題の例）

・大項目 B (1)「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(ウ)）

- 「生命」…生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、**病と治療や老い**、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること。
- 「科学技術」…近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の**正負の側面**と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導すること。

※「自然」については現行のとおり

・大項目 B (2)「社会と文化に関わる諸課題と倫理」（内容の取扱いウ(I)）

- 「福祉」…多様性を前提として、協働、ケア、**共生・包摂**といった倫理的な視点から福祉の問題を取り上げること。

※「文化と宗教」「平和」については現行のとおり

高等学校公民科（政治・経済）における事柄や課題の在り方について

➤ 現行学習指導要領の探究する活動の課題

・大項目 A (2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化
- 地域社会の自立と政府
- 多様な働き方・生き方を可能にする社会
- 産業構造の変化と起業
- 歳入・歳出両面での財政健全化
- 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- 防災と安全・安心な社会の実現 など

・大項目 B (2)「国際社会の諸課題の探究」

- グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- 地球環境と資源・エネルギー問題
- 国際経済格差の是正と国際協力
- イノベーションと成長市場
- 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- 持続可能な国際社会づくり など

➤ 改善イメージ（課題の例） ※赤字は新たに追加等した課題例

・大項目 A (2)「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」

- **人口減少**社会における社会保障の充実・安定化
- 地域社会の自立と政府
- 多様な働き方・生き方を可能にする社会（**起業含む**）
- 歳入・歳出両面での財政健全化
- 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現
- 防災と安全・安心な社会の実現 など

+

● 労働市場のグローバル化と国内の産業構造の変化

● 選挙制度と多様なメディア

● 生成AIなどデジタル技術の発展が進む社会

・大項目 B (2)「国際社会の諸課題の探究」

- グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容
- 地球環境・**気候変動**と資源・エネルギー問題
- 国際経済格差の是正と国際協力
- イノベーションと成長市場
- 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組
- 持続可能な国際社会づくり など

+

● デジタル主権の進展

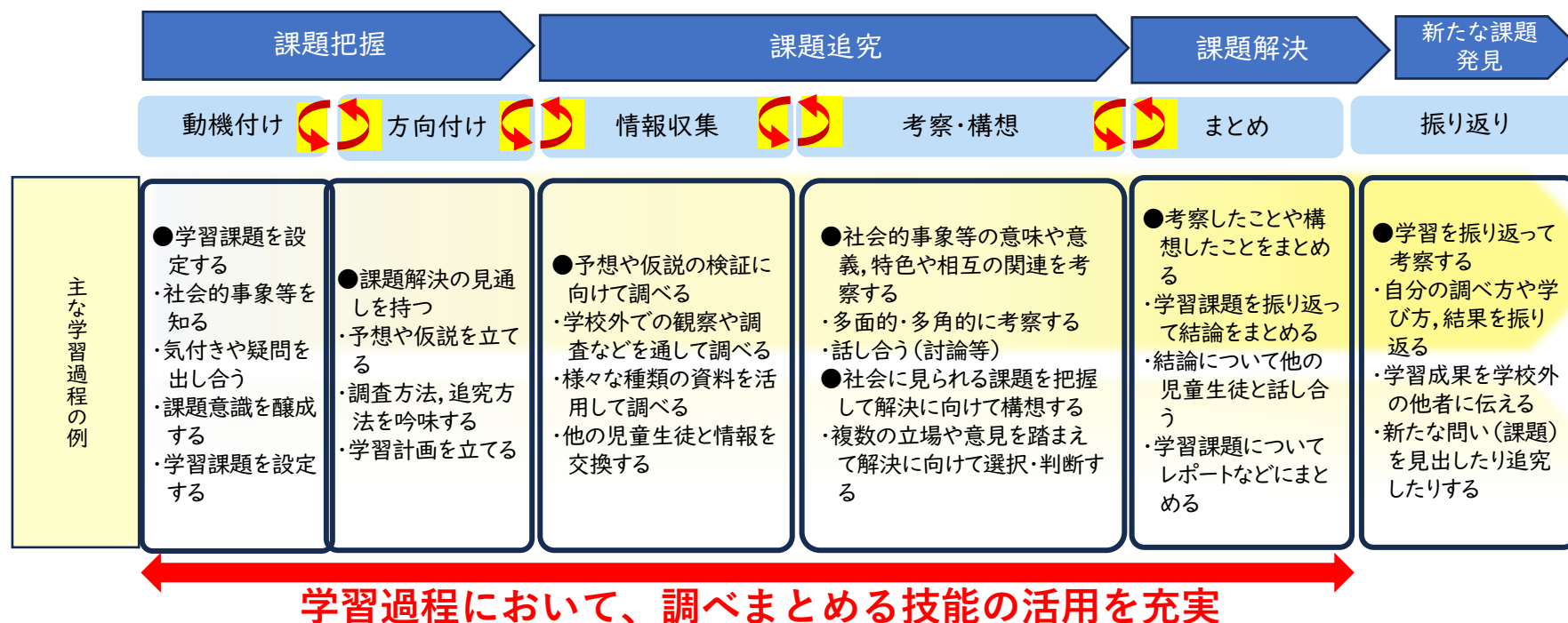
● 複雑化する国際情勢と分極化

● 国際社会における国際法の役割

※課題例について、学校や生徒の実態等に応じて適切に選択

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ

※第8回WGからの修正箇所のみハイライト



<中学校社会「解説」2-1 教科の目標 p.24>

課題を追跡したり解決したりする活動については、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指している。こうした学習は、従前から「適切な課題を設けて行う学習」として、その充実が求められており、「課題を追跡したり解決したりする活動」はそれと趣旨を同じくするものである。そこでは、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追跡し、追跡結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追跡したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからである。そのため「課題を追跡したり解決したりする活動を通して」という文言が目標に位置付けられている。（中学校社会「解説」p.24 2-1 教科の目標）

○調べまとめる技能

情報収集する技能

手段を考えて課題解決に必要な社会的
事象等に関する情報を収集する技能

【1】諸資料の種類と情報を収集する

- 資料の種類と情報
- ・地図等から位置関係や形状、記載内容などの情報を収集する
- ・年表から出来事や時期などの情報を収集する
- ・統計から傾向や変化などの情報を収集する
- ・新聞、図書、画像や現物資料などから情報を収集する
- その他
- ・体験活動を通した仕事などに関する情報を収集する
- ・博物館等の施設、学校図書館やICT端末等を活用した映像や読み物などの情報を収集する
- ・ICT端末や情報通信ネットワークなどを活用した情報を収集する

【2】調査活動を通した情報を収集する

- 社会調査活動
- ・地域住民等を対象にした聞き取り調査やアンケート調査による情報を収集する
- 野外調査活動
- ・現地の様子や実物を観察し、情報を収集する
- ・写真撮影等で観察し、情報を収集する
- ・地図と現地との対応関係を観察し、情報を収集する

●情報手段の特性や情報の確かさに留意した情報を収集する

- ・資料の表題、出典、年代、作者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を収集する
- ・情報手段の特性に留意して情報を収集する
- ・情報発信者の意図などに留意し情報を収集する
- ・情報の有効性（データの新旧など）に留意し情報を収集する

情報を読み取る技能

収集した情報を社会的な視点や方法等に沿って読み取る技能

【1】情報全体の傾向や趣旨を読み取る

- ・位置や分布など全体的傾向を読み取る
- ・量や変化など全体的傾向を読み取る
- ・博物館等の展示物から展示テーマの趣旨を読み取る

【2】必要な情報を読み取る

- 事実を正確に読み取る
- ・形状、種類、大きさ、名称などの情報を読み取る
- ・方位、記号などを読み取る（地図）
- ・年号や時期、前後関係などを読み取る（年表）
- 有用な情報を読み取る
- ・学習上の課題解決に向けた情報を読み取る
- ・目的に応じた情報を選別して読み取る
- 信頼できる情報を確認して読み取る

【3】複数情報を見比べ、結び付ける

- ・異なる情報を見比べ（異なる地域の様子など）て、結び付ける（土地利用の様子など）
- ・同一事象に関する異種資料（グラフなど）の情報を見比べて、結び付ける
- ・同種の資料における異なる表現（複数の地図、複数の新聞や複数の原典資料など）を見比べて結び付ける

●資料の特性に留意して適切かつ効果的に情報を読み取る

- ・歴史資料の作成目的、時期、方法や作成者を踏まえて読み取る
- ・地図や年表などの主題や示された情報の種類や類型を踏まえて読み取る
- ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る
- ・資料の価値や限界を読み取る

情報をまとめる技能

読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能

【1】活用できる基礎資料としてまとめる

- ・聞き取ってメモにまとめる
- ・情報を地図やグラフなどにまとめる（数値情報をグラフなどに転換など）

【2】分類・整理してまとめる

- ・項目やカテゴリーごとに整理しまとめる
- ・順序や因果関係など整理し年表にまとめる
- ・位置や方位など整理し白地図にまとめる
- ・相互関係を整理し図（フローチャートなど）にまとめる
- ・ICT端末等でデジタル化した情報を統合・編集してまとめる

【3】情報の受け手に向けて、分かりやすさに留意してまとめる

- ・効果的な形式でまとめる
- ・主題に沿ってまとめる
- ・レイアウトを工夫しまとめる
- ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

●自らの整理した情報が妥当であるか吟味しまとめる

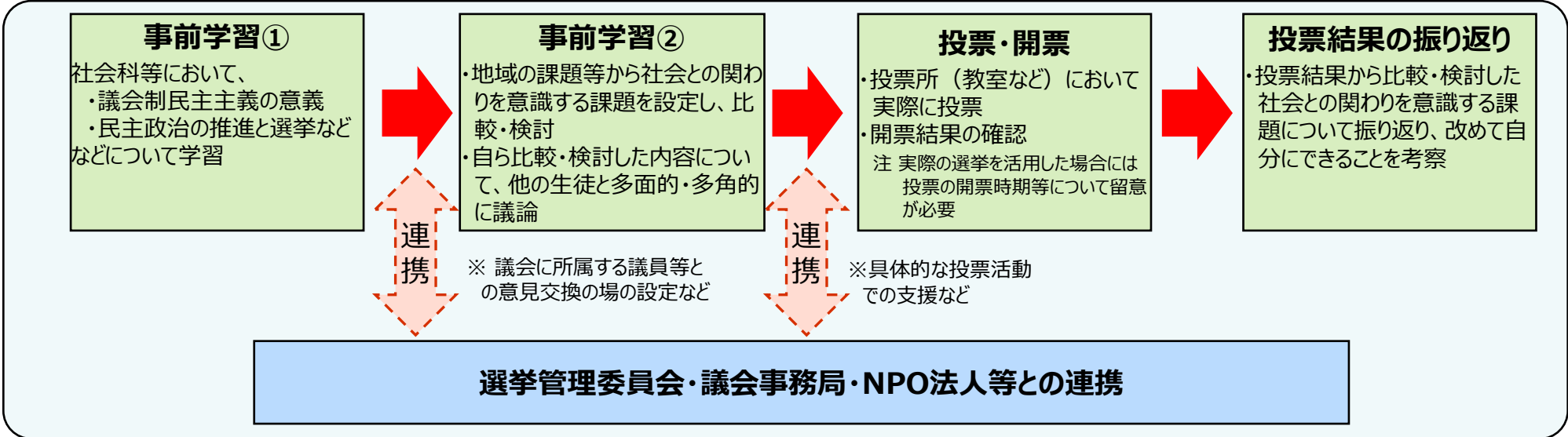
- ・まとめた情報の根拠を他者とも共有（活用した資料などの典拠などを明記するなど）する
- ・まとめた情報に含まれる他者の考えや資料などの引用部分を明示する
- ・まとめた情報について妥当性があるかを確認する

確認 ○情報の妥当性の

子供たちが主体となって実感を持つことができる実践的な活動のイメージ

社会参画意識を一層向上させるため、子供自身が有権者であることを意識し、自らの判断で権利を行使することができるように、外部機関等も活用した実践的な活動をより充実する

● 模擬投票における連携の例



● 模擬請願における連携の例

